

東京都南部心不全ネットワーク(JONAN Heart Failure Medical Collaboration: JHeC[♡])による、心不全包括ケアを通じた循環型心不全管理の確立

木内 俊介 ● 東邦大学 医学部内科学講座 循環器内科学分野 准教授



JHeC[♡]主幹施設会議後の集合写真

要旨

東京都南部医療圏で統一した心不全患者教育を行うため、2022年9月にJHeC[♡]を、23年6月にはJHeC[♡]メディカルスタッフ会を立ち上げた。多職種での介入も行い、統一した教育方法や評価方法により地区全体として心不全による入院を減ずることで、健康寿命の延伸に寄与することを目的としている。本取り組みを進めている現状における課題は(1)統一した資料(ハートノート／自己管理手帳)の配布数、(2)活動の周知である。(1)を達成するためにも(2)は不可欠であり、本助成によりホームページの作成や活動内容を記載した論文化による周知が可能となった。その結果、加盟施設も14施設へと増加(設立時10施設)し、今後1施設加盟予定である。

地域医療貢献のポイント

活動が周知され、統一した資料による心不全教育や評価法がさらに広がった。本活動により増悪の早期検出や治療を通じて再入院減少を含む予後改善が期待でき、入院によるQOL低下予防も含め、健康寿命の延伸が期待できる。

1. 目的と方法

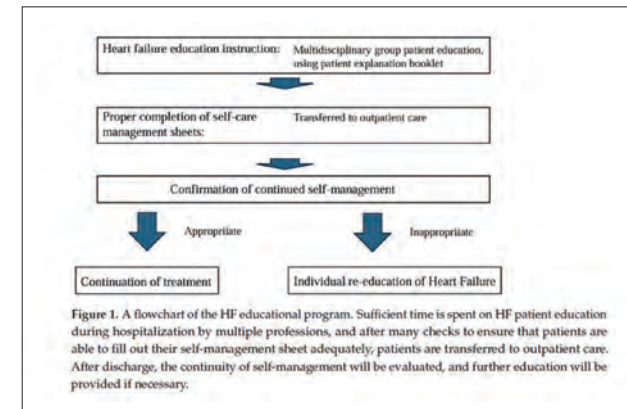
増加する心不全患者数への対応として、自己管理の徹底は重要である。自己管理のためには適切な患者教育が重要であり、各施設独自の教育ではなく、地域全体で統一した患者教育が重要である。そのため、東京都南部医療圏では2022年9月にJHeC[♡]を、23年6月にはJHeC[♡]メディカルスタッフ会を立ち上げた。これにより他施設および多職種間で連携し、ハートノートを使用した統一した患者教育と付属する自己管理手帳による評価方法の統一を開始した。地区全体として心不全による入院を減ずることで、健康寿命の延伸に寄与することが本取り組みの目的である。

2. 現状の成果・考察

JHFeC加盟施設で心不全患者への多職種からの患者教育を行い、その際にハートノートを用いる。付属された自己管理用紙を適切に管理し、(1)現在の状態の認識と(2)自己管理用紙より算出された点数から心不全の状態を判断し(3)受診などの行動に移すことで、早期からの対応による心不全増悪により入院を予防し、予後改善のみならずQOL



活動の論文化



入院から外来に至る患者指導のフローチャート

General blood pressure management sheet					Heart failure self-management sheet				
Month / Day	/	/			Month / Day	/	/		
Systolic blood pressure					Body weight	3P	0P	3P	0P
Diastolic blood pressure					Blood pressure				
Heart rate					Heart rate	4P	0P	4P	0P
					Dyspnea at rest	Y	N	Y	N
					Dyspnea on activity	Y	N	Y	N
					Edema	Y	N	Y	N
					Symptoms Cough	Y	N	Y	N
					Appetite loss	Y	N	Y	N
					Total points	1P	0P	1P	0P

Figure 2. Comparison of general blood pressure management sheet and heart failure self-management sheet. The number of factors in heart failure self-management sheet to be recorded does not increase significantly compared to a blood pressure diary. Y: Yes, N: No.

ハートノート[®]に付属する自己管理手帳と一般的な血圧手帳の比較

維持から健康寿命の延伸を期待している。

現状での課題は、(1)統一した資料(ハートノート／自己管理手帳)の配布数、(2)活動の周知である。前者を達成するためには周知活動は重要であり、現在まで医師会や講演会での活動、YouTubeの作成なども行ってきたが、十分な周知には至っていない現状もあった。しかし、本助成によりホームページの作成や活動内容を記載した論文化による周知が可能となった。論文により活動内容が明文化され、ホームページへの掲載を行うことにより、多職種にわたる医療者の目に触れる機会も増加した。

こうした周知の結果、加盟施設も設立時の10施設から14施設へと増加し、今後1施設追加し、計15施設と加盟施設が増加する予定である。なお、JHeC[♡]は多くの周知活動の結果も踏まえ、2025年1月に一般社団法人JHFeCへと移行した。



JHFeC ホームページ、トップ画面

3. 今後の展望

これらの取り組みと、本助成によるさらなる周知により、ハートノート／自己管理手帳の配布数は増加し、その継続率も増加した。その効果もあり、東邦大学医療センター大森病院における心不全再入院も減少傾向にある。

一方、実地医家の先生方からは、「自己管理用紙の記載はできていたが点数化がなかなか難しいようだ」といった声も聞こえてくる。東京区南部医療圏におけるさらによりよい患者教育および評価法を検討する時期に差し掛かっているのかもしれない。JHeC[♡]設立から2年6カ月程度が経過し多くの症例も集積してきたため、本取り組みの効果を検証し、よりよい活動方法を検討していきたいと考えている。



心不全教室の風景



現 JHFeC 加盟施設 (ホームページより)